

御中

発行 No.	CHM-1-2149	
制 定	2004 年 7 月 2 日	版
改 正	2019 年 10 月 23 日	2

取 扱 説 明 書

日本圧着端子製造株式会社

品 名	GH コネクタ
-----	---------

一 目 次

1.	形番及び各部名称.....	1
1.1	形番.....	1
1.2	各部名称.....	1
2.	推奨基板パターンレイアウト.....	2
3.	取扱上の注意事項.....	3
3.1	基板実装時の注意事項.....	3
3.1.1	リフローはんだそうによるはんだ付け.....	3
3.1.2	はんだごてによるはんだ付け.....	3
3.2	挿入時の注意事項.....	4
3.3	引抜時の注意事項.....	5
3.4	電線の所持について.....	6
3.5	電線の引回しについての注意事項.....	7

承 認:	検 印:	検 印:	作 成:
富本	雨宮	松中	田中

BER-4110-2-1

JST	品 名: GH コネクタ	No. CHM-1-2149
------------	--------------	----------------

はじめに

弊社GHコネクタをご使用頂きありがとうございます。

本取扱説明書は、GHコネクタをご使用頂く上で、重要かつ必要な項目についてまとめたものです。

ご使用の際には必ずご一読の上、作業の方々に厳守して頂き、ご使用下さい。

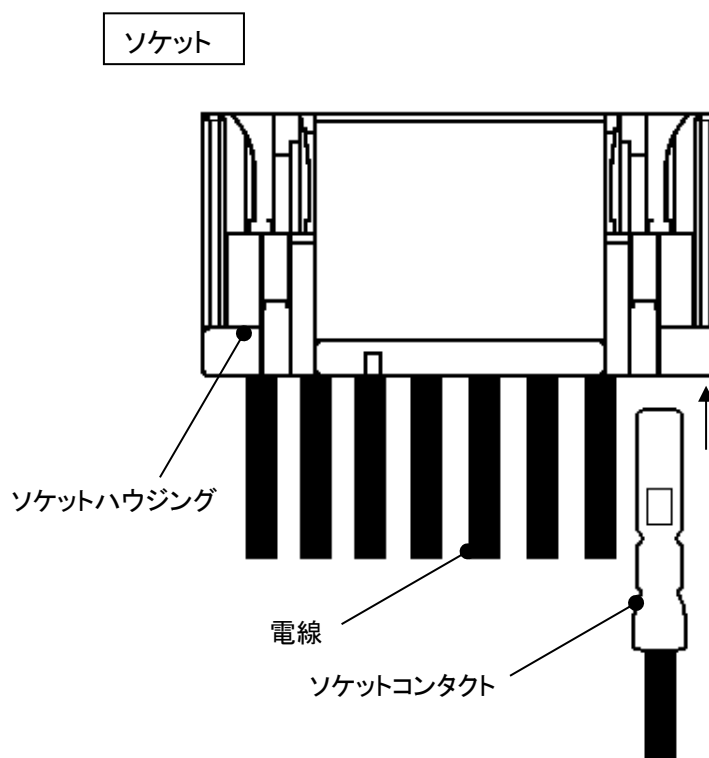
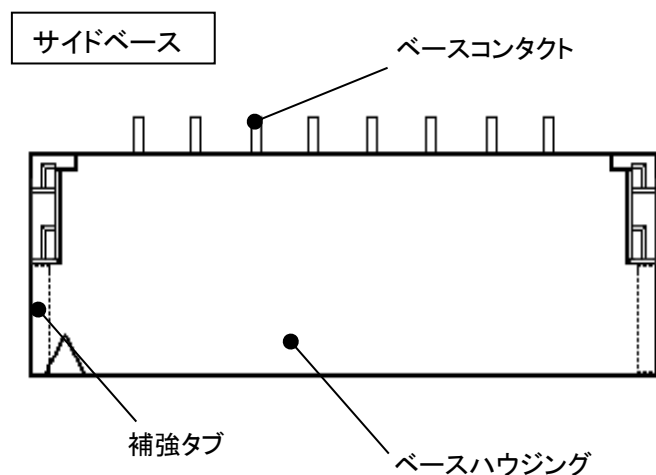
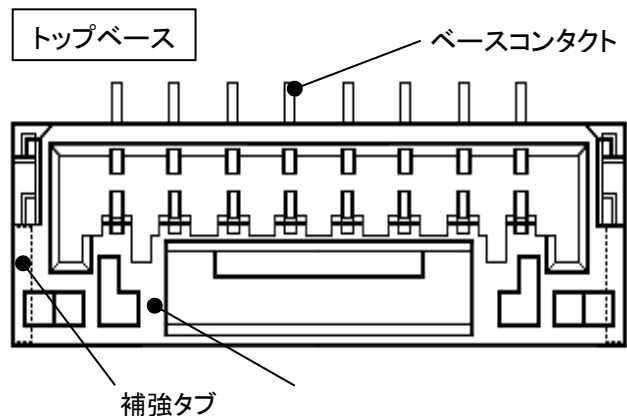
1. 形番及び各部名称

1.1 形番

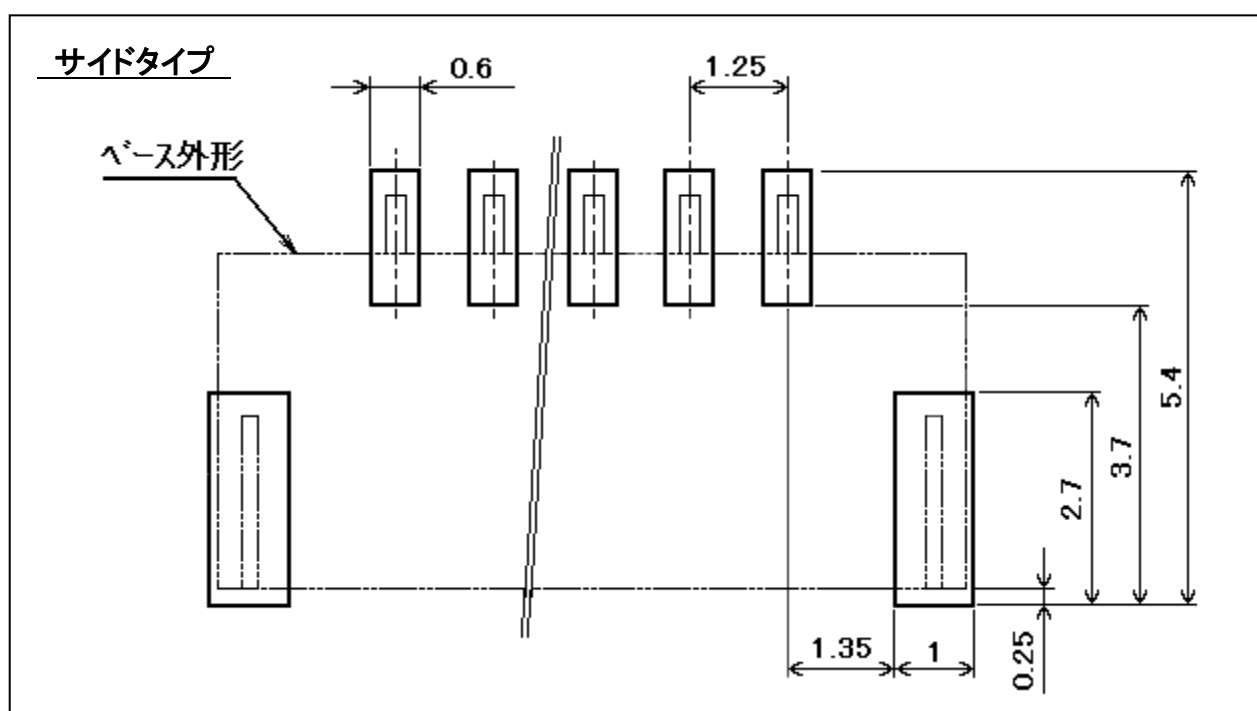
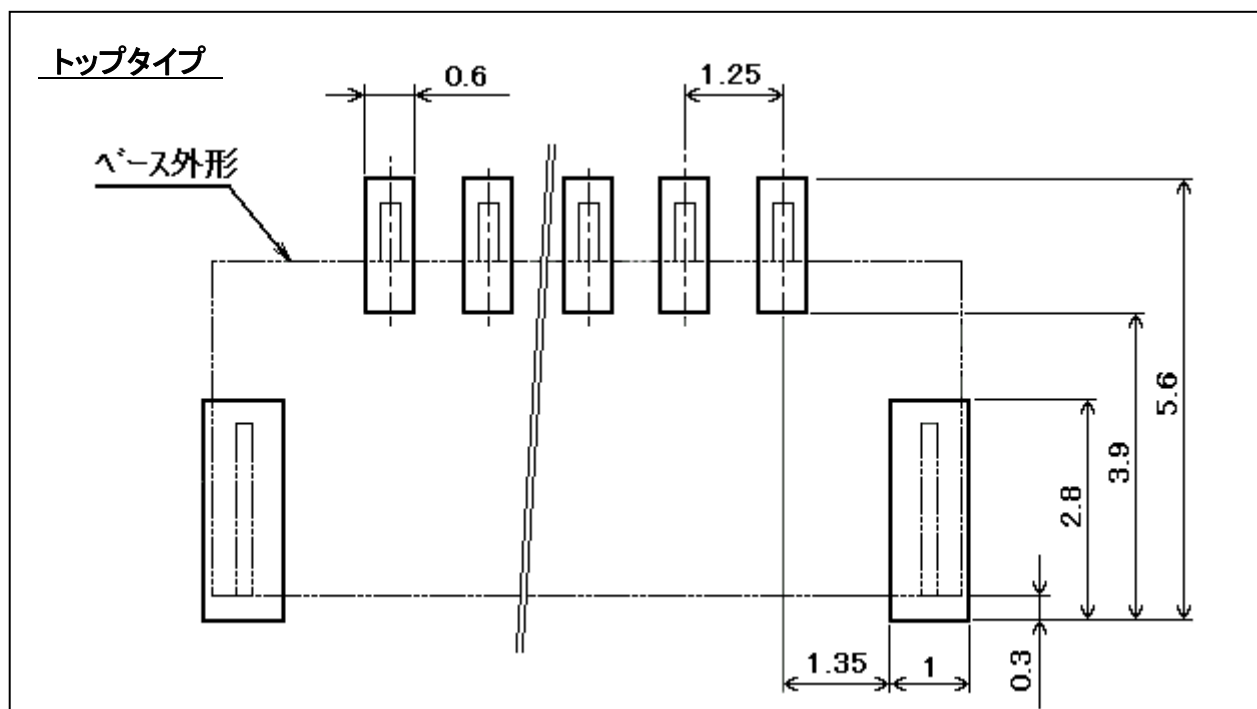
品 名			形 番
ソケット	ハウジング		GHR- ** V-S
	コンタクト		SSHL-002T-P0. 2
ベース	バラ品	トップタイプ	BM ** B-GHS (LF)(SN)
		サイドタイプ	SM ** B-GHS (LF)(SN)
	テーピング品	トップタイプ	BM ** B-GHS-TBT (LF)(SN)(N)
		サイドタイプ	SM ** B-GHS-TB (LF)(SN)

注 1: ** は極数を表す2桁の数字が入る。

1.2 各部名称



2. 推奨基板パターンレイアウト



JST	品 名: GH コネクタ	No. CHM-1-2149
------------	--------------	----------------

3. 取扱上の注意事項

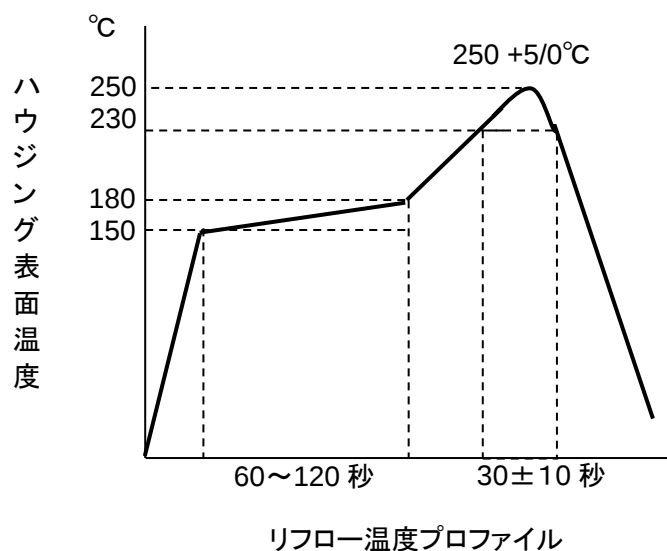
3.1 基板実装時の注意事項

コネクタを基板に実装するには、以下の点に留意下さい。

3.1.1 リフローはんだそうによるはんだ付け

下記に示す温度プロファイルでのはんだ付けを推奨します。但し、使用されるはんだペースト等によりリフロー推奨温度が異なりますので、実装確認が必要です。

尚、実装される際のメタルマスクの使用については、開口部を基板ランド面積と同面積、厚さ 0.12～0.15mm 程度のメタルマスクを使用することを推奨致します。また、0.15mm より厚いメタルマスクを使用する場合には、メタルマスクの開口部面積を基板ランド面積より小さくし、はんだ量を調節して頂きますよう、お願い致します。



※本製品は、コネクタ嵌合時の取り扱いを考慮してハウジング材料に靱性に優れた耐熱ポリアミド材を使用しておりますが、ハウジングの吸水状態あるいははんだ付け条件によっては、リフローはんだ付け時にハウジング外表面に”ふくれ”が発生する可能性があります。

この”ふくれ”に関しましては、ポリアミド材の物性変化を伴うものではなく、又、製品機能を損なうものではありませんので、”ふくれ”が発生した場合には、その旨ご理解願います。

3.1.2 はんだごてによるはんだ付け

はんだごてでのはんだ付け、及び、はんだ修正の際は、こて先温度 350°C のはんだごてを用い、3秒以内に速やかに処理を行い、処理中にこて先でピンを押さえたりして外力を加えないよう配慮願います。

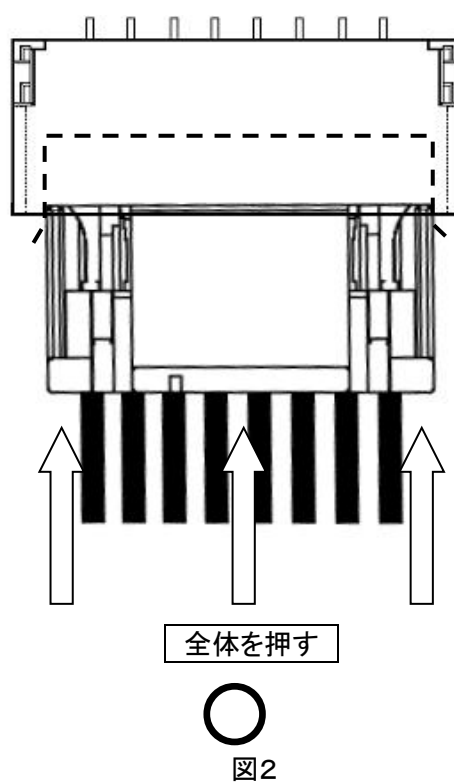
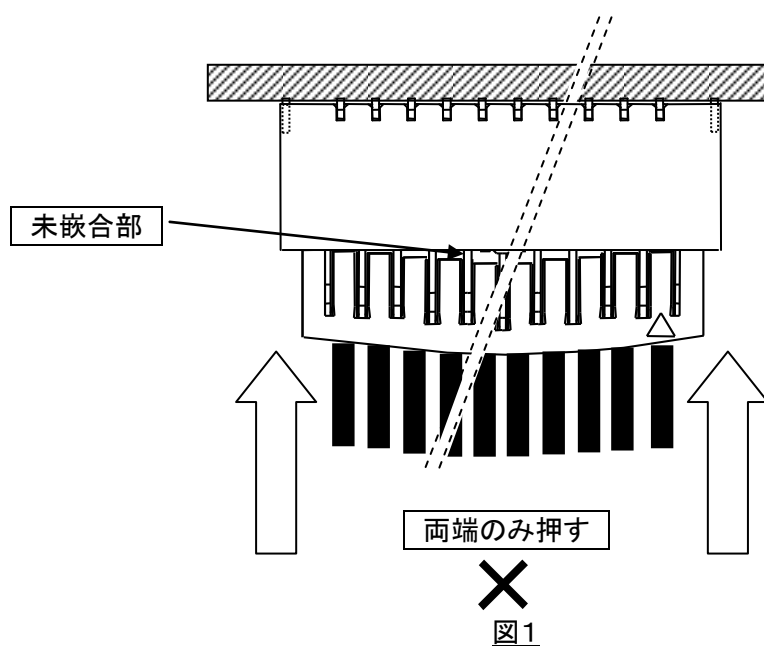
万一、外力を加えた場合は、コネクタを取り外して交換して下さい。

但し、取り外したコネクタは、再使用しないで下さい。

JST	品 名: GH コネクタ	No. CHM-1-2149
------------	--------------	----------------

3.2 挿入時の注意事項

- (1) 大極に関しては嵌合の際、下図1の矢印のようにソケットの両端のみを押して嵌合するとソケットのたわみにより、一部未嵌合部が生じる恐れがありますので、下図2のようにソケット全体を押して嵌合されますよう、お願い致します。
また、嵌合作業の際は、下図2のように、ベースハウジングにソケットハウジングを沿わせ、同軸上で作業されますよう、お願い致します。
- (2) 正常に嵌合が終了すると、「カチッ」という音がします(クリック感)。クリック感が無いときは嵌合が未完了の可能性がありますので、再度、嵌合をやり直してください。(やり直し回数は極力少なくするよう作業に注意してください。)



JST	品 名: GH コネクタ	No. CHM-1-2149
------------	--------------	----------------

3.3 引抜時の注意事項

- (1) 引抜き時は下図3のようにロック操作部を押さえ、電線を一括保持し、ロックを完全に解除した状態で引抜いて下さい。ロックが完全に解除されていない状態で無理に引抜こうとすると、ロック部が破損し故障の原因となります。
- (2) 下図4のようにソケットをベースに対して傾けた状態にしてから引抜くとハウジングが変形する恐れがあります。また、嵌合軸に対して真直ぐに引き抜かれた場合でも、電線を一括保持しないで端極を数本持った状態ではこじり引抜きと同様の作用が生じる可能性があります。ソケットの引抜の際には、必ず電線を一括保持した後、ロックを完全に解除し、真直ぐ(20° 以内の角度)引抜いて下さい。

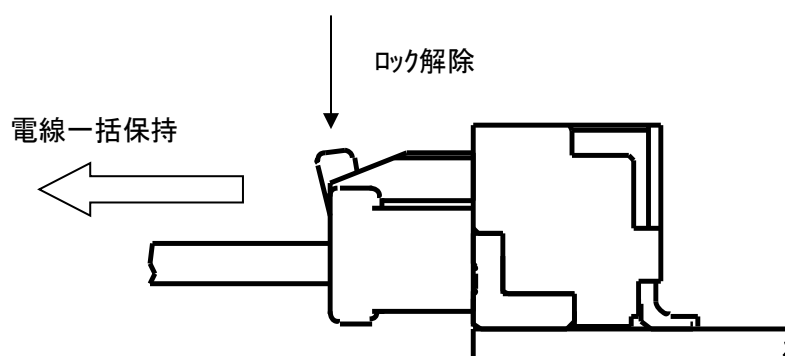


図3

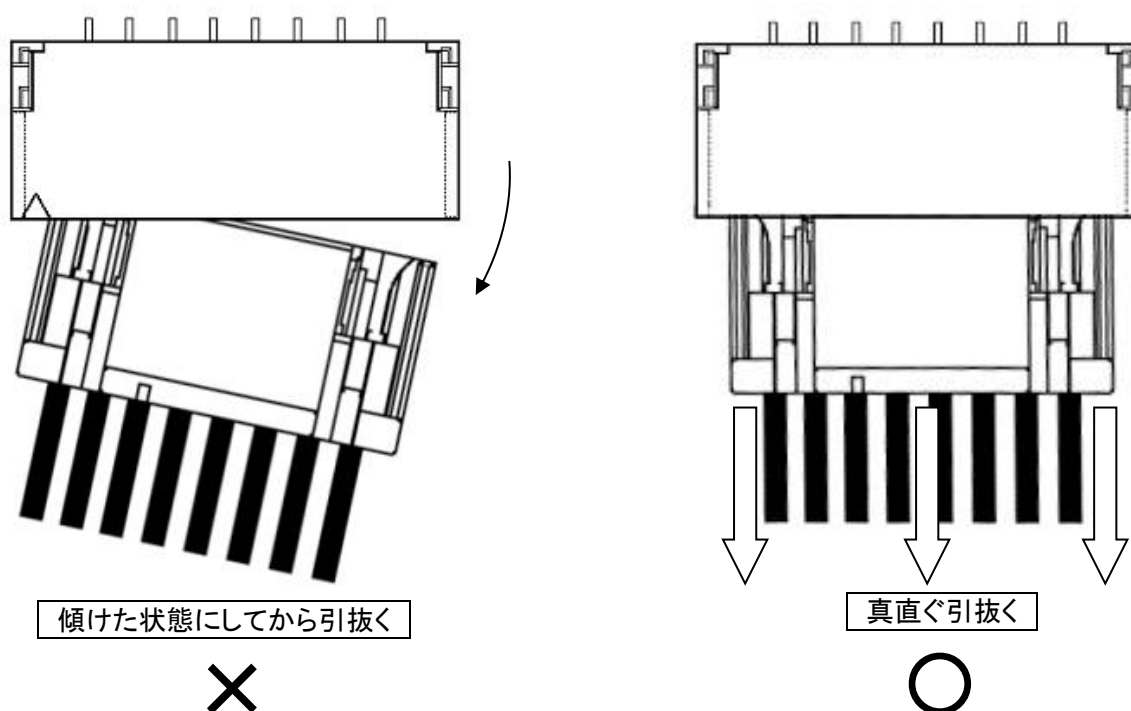
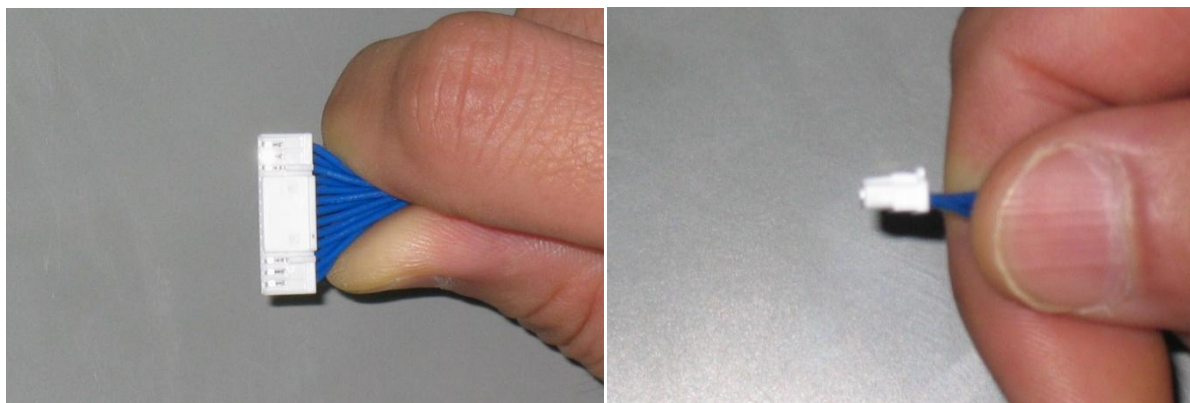


図4

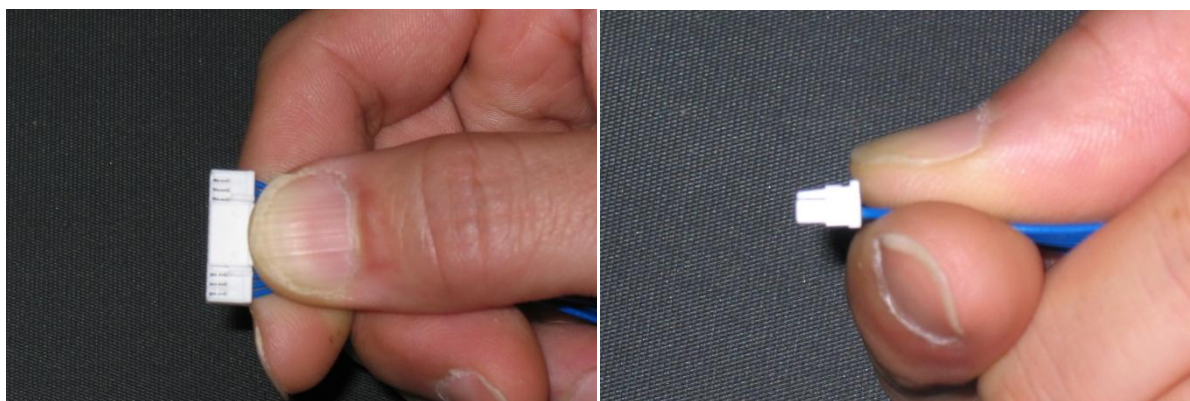
JST	品 名: GH コネクタ	No. CHM-1-2149
------------	--------------	----------------

3.4 電線の所持について

挿入ならびに引抜を行う際に電線を一括所持する場合、ピッチ方向に電線を中央に寄せることは行わず、
下図5のように上下方向に掴んで作業を行ってください。
(コネクタが弓なりに変形・破損する恐れがあります。)



ピッチ方向に掴む



上下方向に掴む



図5

JST	品 名: GH コネクタ	No. CHM-1-2149
------------	--------------	----------------

3.5 電線の引回しについての注意事項

電線の引回しは、コネクタに電線の曲げによるテンション以上の力が加わらない様、配慮願います。
また、可動部への使用は極力さけて下さい。可動部に使用される場合は下図6のように電線の動きが接点に伝わらないよう電線を固定して下さい。

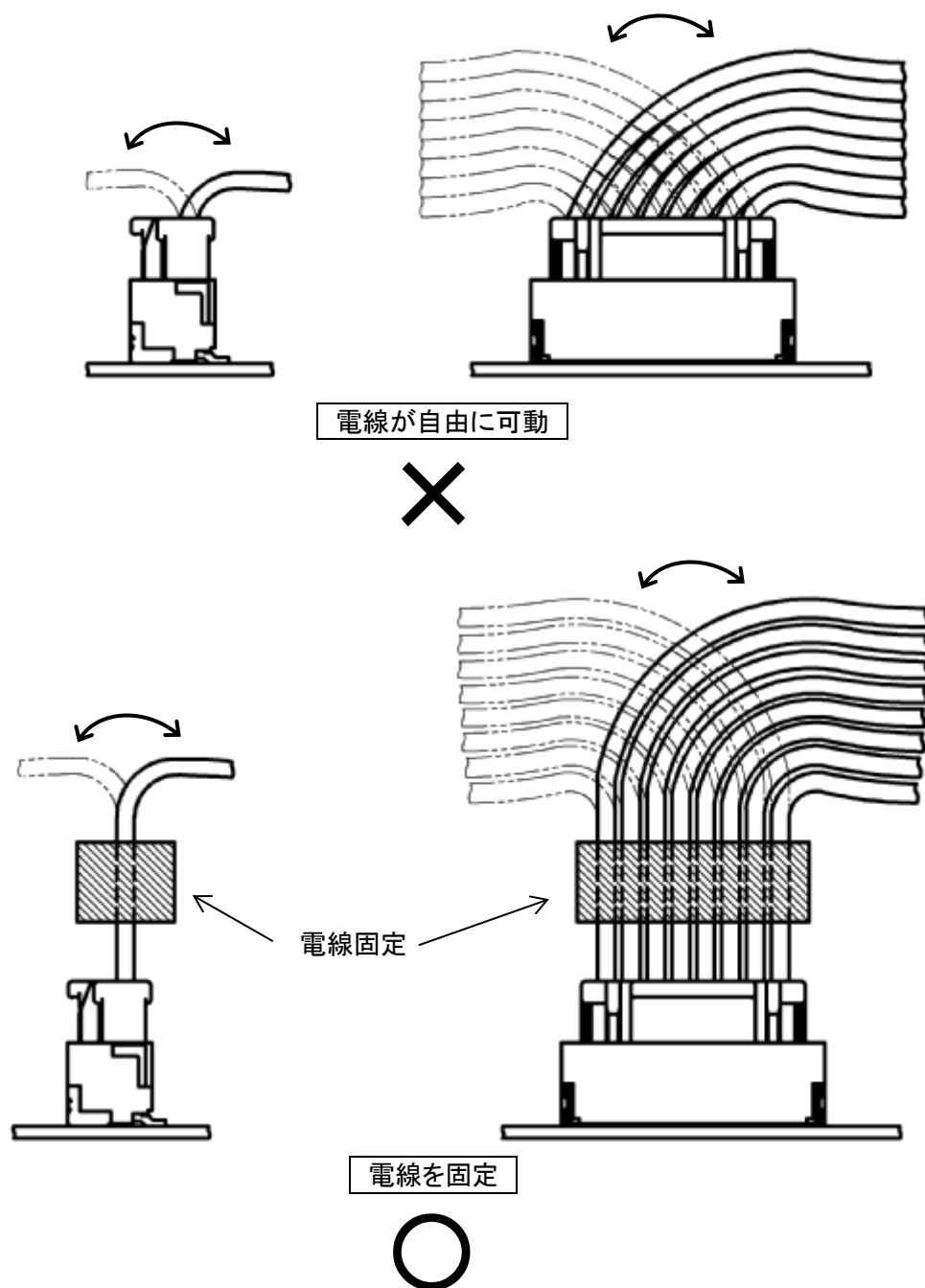


図6